

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02904

研究課題名(和文)宋代手紙資料から見た政治的ネットワークとコミュニケーションに関する研究

研究課題名(英文)A Study on the Political Network and Communication using Song Dynasty Letters

研究代表者

平田 茂樹(HIRATA, SHIGEKI)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：90228784

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：宋代士大夫のネットワークとコミュニケーションについて以下のことが明らかとなった。

(1) 中央の士大夫は、手紙を一種のSNSのように使い、私的集団内においては上奏文、文学作品などを手紙に付して議論を行うとともに、会合を開き、手紙を見ながら討論を行った。(2) 周辺・縁辺社会の士大夫は、交通が不便なため、手紙は彼らの政治、社会、経済、文化活動を支える重要な手段として機能した。特に、遠距離間の交流の手紙の場合、より詳しい情報が記され、討論の手段として使われることが多かった。(3) 手紙の分析を通じて、路あるいは全国にまで及ぶ文化的ネットワークが存在し、そのネットワークを通じて各種の活動が営まれていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

宋代士大夫の日常生活の交流を端的に示す手紙資料を分析することを通じて、郷村、県、州、路、全国と多層的空間において、血縁、地縁、学縁、業縁などのネットワークが複合的に結びつき、複雑なネットワークが構築されている様子が明らかになるとともに、特に南宋期においては、中央・地方それぞれに構築される政治的ネットワーク、州を中心として形成される家族・宗族共同体や婚姻圏とは別に、路あるいは全国にまで及ぶ文化的ネットワークが存在し、これらが相まって士大夫の活動を支えていたことが明らかになった。以上のように、今後の宋代士大夫のネットワークやコミュニケーションを考えるうえで、新たなモデルを提出した。

研究成果の概要(英文)：I clarified the following points about the network and communication of Song elites.(1) The elites who lived in the central regions often exchanged public letters, and at the same time they also exchanged private letters. They used private letters as a kind of SNS, and among private groups, they discussed the works attached to letters, and sometimes held meetings looking at the letters.(2) For elites who lived in marginal societies, letters served as an important means of supporting their political, social, economic and cultural activities, in order to supplement inconvenient transportation. Therefore, in the case of letters for long-distance companionship, more detailed information was written and often used as a means of discussion.(3) Through the analysis of the letters, I revealed that the Song Dynasty elites had a wide-ranging cultural network that extended to the circuits (lu, 路) or across the nation, and that various activities were conducted through the network.

研究分野：宋代史

キーワード：ネットワーク コミュニケーション 手紙 中央 周辺 縁辺

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究課題「宋代手紙資料から見た政治的ネットワークとコミュニケーションに関する研究」の設定は以下の理由による。政治的ネットワークの基礎には、日常生活世界のネットワークが存在しており、この日常的ネットワークが政治システムを媒介して、政治的ネットワークに発展していく。従って、政治的ネットワークの深層に潜む日常的ネットワークおよび彼らの集団意識を明らかにする必要があるが、両者を結び付け考察した研究成果は殆ど見られない。士大夫のネットワーク研究は、これまでは実録、正史系史料及び墓誌銘・行状を中心とした史料に基づく分析が中心であり、日常生活の交流で用いられる手紙に目が向けられてこなかった。従って、手紙資料に目を向けることにより、上記の課題を解明する可能性が存在している。

2. 研究の目的

今回の研究課題「宋代手紙資料から見た政治的ネットワークとコミュニケーションに関する研究」は、これまで思想史、文学研究において主として使われてきた手紙資料を政治史研究の分野において使用し、手紙が宋代の政治においてどのように用いられ、かつネットワーク形成や政策決定過程においてどのように機能したかを解明しようというものである。北宋から南宋にかけて政治の方向は中央集権から分権、あるいは皇帝専権から宰相専権といった幾つかの変化を見せるが、今回は北宋、南宋期の幾つかの文集所載の手紙資料を用いて分析を行い、このケーススタディの作業を通して、北宋から南宋にかけて政治的ネットワークや政策決定がどのように変化したのか、あるいは中央集権から分権および皇帝専権から宰相専権への流れ、さらには地域社会における士大夫のネットワークおよびコミュニケーションの構造を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)手紙資料の分析。北宋から南宋まで士大夫の手紙は数多く残されており、その中でも南宋の手紙資料に目を向けていく。具体的には魏了翁、呉泳、洪咨夔、崔與之の手紙に目を向けるとともに、彼らと深く関わる史彌遠、真德秀、安丙、劉克莊などの手紙にも目を向けつつ、南宋の官僚・士大夫間の政治的ネットワーク、コミュニケーションの特徴について解明を進めていく。
(2)共同研究。北宋の手紙資料を用いた分析については、当該資料の研究を進めている内外の研究者と研究集会を開催し、北宋と南宋の手紙資料の特徴や士大夫のネットワーク、コミュニケーションの差異について意見を交換し、その成果を取り入れつつ、宋代の手紙資料の特徴及び宋代士大夫のネットワークとコミュニケーションの特徴について考察を行う。
(3)成果の公表。内外の学会にて研究報告を行うとともに、その成果を学術雑誌に公表する。

4. 研究成果

(1) 主な研究成果

手紙の類型。(a)公的な文書とほぼ同じ機能を有するもの。官府へ公式文書を送付するとともに、上司、部下、同僚などの官僚へ同内容もしくは詳細な経緯を記した手紙を送ることにより、政治的な「交渉」を進めていく。(b)私的なプライベートなやり取りをする機能を有するもの。当時の手紙史料を読み進めていくと現在の SNS のように私的な仲間内で手紙が読まれ、その中で意見の交換が行われる。この種の手紙には文学作品、哲学作品、上奏文の副本などの各種の文献や肉、魚、酒などの贈り物を伴うことが多い。(c)(a)と(b)の中間的な手紙であり、官界や士大夫の世界の交際に用いられる手紙であり、「啓」という形式を取ることが多い。現在残る「啓」には赴任、陞進の挨拶、推薦を受けた謝辞、誕生日などで挨拶や贈り物を受けた返礼の挨拶などである。

手紙と他の資料との関連性。手紙は現物のやりとりに加えて、上記に述べた各種の贈り物を伴うことが多く、「序」「題跋」「記」等の文学作品とワンセットとなっているものも多く見られる。手紙の解読は (a)の公式文書、(b)で示した各種文学作品などと一体化して行う必要がある。

動態的分析方法。手紙の研究には動態的観点が必要となる。当事者間での手紙のやり取りに加えて、(b)に示したような、「私的領域」において集団で手紙を読む過程を伴うことがある。さらに、士大夫の手紙は保存され、鑑賞の対象となるとともに、宋代の手紙の多くは文集に採録されることとなる。

中央と周辺・縁辺社会。手紙は特に交際がしにくい「周縁」・「縁辺」的世界において大きな機能を果たしている。都などの中央においては直接的な交際の事例を多く見ることができが、「周縁」・「縁辺」的世界においては、手紙を介しての交際の事例が多く、その中で政治、文学、哲学などの様々な意見交換が為される。

補足：ケーススタディの成果。

(a)魏了翁のネットワークとコミュニケーション。南宋の士大夫魏了翁の文集『鶴山先生大全文集』に所載されている手紙を分析し、魏了翁のネットワークについて以下のことを明らかにした。魏了翁の婚姻圏は故郷の四川の蒲江県を中心とした狭い範囲であり、同じ蒲江の高氏との間で通婚、養子縁組を繰り返すなど、深い地縁、血縁(姻戚関係も含まれる)的な結びつきを有していた。また、四川に対する強い故郷意識を手紙は表しており、地縁関係の強さを示してくれる。魏了翁は自らが設立した「鶴山書院」を中核として、書院での講学や手紙を通じた学問上のやりとりを通じて、全国的な学問ネットワークを構築していた。

魏了翁は数多くの「序」「記」「跋」「墓誌銘」などを残しており、手紙を用いながら交流す

る文化的ネットワークは広範囲に及んでおり、これは北宋頃より一般的となる文章を交換、贈答しあう文化的ネットワークの展開を見事に体現している。

・高官であった魏了翁は各種の政治的なネットワークを有し、手紙を上奏文などの公式文書と同様な形で使用していたが、とりわけ「済王」の冤罪を訴えた仲間たちと深い政治意識を共有していた。

・以上より窺える、各種のネットワークは重層的かつ複合的に結びついており、南宋の士大夫が血縁、地縁、政治、学問、文化的ネットワークを取捨選択し、活動していたことを示してくれる。ただ、近年の研究成果が示すとおり、前代に比べ、学問、文化的ネットワークは南宋頃より、広範囲かつ大きな影響力を持つようになって来る傾向があり、魏了翁のケースはその典型として見做すことができる。

(b) 呉泳、洪咨夔、崔與之のネットワークとコミュニケーション。

・手紙には、上級官司への上奏文や下級官司への命令文のような公的文書と同じ機能を有するもの、儀礼、挨拶、謝礼などの機能を有するもの、友人、知人などの私的領域に於いて意見の交換や議論、請求を行うもの、の3類型に分かれる。

・宋代頃より流行する「贈答品応酬」の文化と呼応するように、手紙には文学、思想、歴史などに関する作品や酒、肉などの物品がつけられることが多い。

・呉泳の中央政界時代の手紙に顕著にみられるが、一つの手紙の中に幾人かの知人、友人が登場して議論を展開したり、様々な作品について議論を行うなど、私的なサークルの交流手段として用いられた。

・手紙は私的領域におけるコミュニケーション手段として、内なるメンバー内での「公開性」、「開放性」を有する一方、中央政界との交流を避ける文言が見られるなど「秘密性」を有するものでもあった。

・手紙の中には、「蔵書楼」や「書院」といった知識構築の具体的な施設、「遞舖」「邸報」などの手紙と深く関わる情報媒体手段が記されており、これらが複合的に絡まることを通じて、情報伝達やコミュニケーションが実現されていた。

・南宋の士大夫社会のネットワークを研究していくと、地縁、血縁を中心としたネットワーク、思想・文学を中心とするネットワーク、政治的ネットワーク、「交遊圏」というべき文化、娯乐的ネットワークなどの重層的、複合的なネットワークが存在し、手紙はとりわけこれらの多様なネットワークを探る格好な史料であると共に、ネットワークをつなぐ重要な媒体手段の役割を果たしていたことを示してくれる

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

手紙資料はこれまで宋代文学、宋代思想史においては学派、文学結社、文人・学者間の交流における重要資料として利用されてきたが、宋代史においては部分的な利用はともかくとして、本格的な利用はほとんど見られなかった。ただ、欧米、中国、台湾、香港においてほぼ時を同じくして、宋代士大夫のネットワークおよびコミュニケーション研究が流行し始めており、すでにオランダ、中国、台湾、香港などの学会において成果を報告し、その成果については中国の『北大史学』、北京大学出版会の論文集などに掲載され、一定の評価を受けている。また、日本の宋代文学研究者、香港の宋代思想研究者などと研究集会を開催し、文学、思想における手紙資料の可能性について理解を深めるとともに、歴史学における手紙資料の可能性について意見交換を行っている。

北京大学の鄧小南教授は「信息溝通與国家秩序」のプロジェクトを進行しているが、このプロジェクトに参画し、「情報伝達」「ネットワーク」「コミュニケーション」「国家・社会秩序」について多くの研究者と意見交換を行うとともに、手紙資料の可能性について数度にわたり報告を行い、肯定的な評価を受けている。

(3) 今後の展望

本科研費研究課題は、基盤研究(c)「宋代社会における多層且つ複合的な士大夫ネットワークの研究」(令和元年度～四年度)に発展させ、研究を継続している。特に本課題において残されているのが、宋代士大夫の多様なネットワーク構造の解明、ネットワーク内の集団意識、コミュニケーションの多様な手段の解明である。具体的には、手紙資料に加えて、分析対象範囲を序、題跋、記、さらには詩などの文学作品に広げることを通じて、これまでの正史、実録系史料、及び墓誌銘、行状などの伝記資料からは窺うことのできなかったネットワークやコミュニケーションの諸相を明らかにする予定である。また、本課題に引き続いて内外の研究者と共同研究を進めており、これらの成果については逐次、内外の学会にて報告を行うとともに、学術雑誌に公表していく。これらの作業を通じて「多層」且つ「複合」的な宋代士大夫のネットワーク構造が明らかにされることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 平田茂樹	4. 巻 48-2
2. 論文標題 從都市史料和筆記小説的比較來看宋代的茶館	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 清華学報	6. 最初と最後の頁 357 - 386
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田茂樹	4. 巻 中西書局
2. 論文標題 從邊境社會看宋代士人的交往和信息溝通--以魏了翁、吳泳、洪咨キの事例為線索-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 十至十三世紀東亞史的新可能性—首屆中日青年學者遼宋西夏金元史研討會論文集	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田茂樹	4. 巻 1
2. 論文標題 兩宋的政治空間—以魏了翁“應詔封事為線索”—	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宋學研究（浙江大學出版社）	6. 最初と最後の頁 123-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田茂樹	4. 巻 18
2. 論文標題 南宋周辺社会における士大夫の交流と「知」の構築	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大阪市立大学東洋史論叢	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田茂樹	4. 巻 12
2. 論文標題 南宋士大夫のネットワークとコミュニケーション - 魏了翁の「靖州居住」を手がかりとして -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東北大学東洋史論集	6. 最初と最後の頁 215-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周佳・汪シヨウ (さんずい+肅) 農・平田茂樹	4. 巻 2016年12月
2. 論文標題 『宋代登科総録』与宋代科举政策变化研究	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 浙江大学 (人文社会科学網絡版)	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 平田茂樹	4. 巻 汲古書院
2. 論文標題 「科挙社会」の視点から探る宋代都市社会史研究の新たな可能性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 中国都市論への挑動	6. 最初と最後の頁 33-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田茂樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 「科挙社会」の視点から探る宋代都市社会史研究の新たな可能性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『中国都市論への挑動』 (汲古書院)	6. 最初と最後の頁 33 - 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田茂樹	4. 巻 12
2. 論文標題 南宋士大夫のネットワークとコミュニケーション - 魏了翁の「靖州居住」時代を手がかりとして -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東北大学東洋史論集	6. 最初と最後の頁 215 - 249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田茂樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 宋代における手紙の政治的効用 - 魏了翁『鶴山先生大全文集』を手がかりとして -	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 『中国伝統社会への視角』(汲古書院)	6. 最初と最後の頁 302 - 330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件(うち招待講演 2件/うち国際学会 10件)

1. 発表者名 平田茂樹
2. 発表標題 南宋社會の士大夫の複合的且つ多層的ネットワーク 手紙史料を手がかりとして
3. 学会等名 宋代史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田茂樹
2. 発表標題 略探南宋士大夫複合、多重的社会網絡構造——以書信史料為線索
3. 学会等名 十至十三世紀西北史地国際學術研討会及中国宋史研究会第十八届年会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 發表者名 平田茂樹
2. 發表標題 南宋社会士大夫的多重網絡空間——以書信材料為線索
3. 学会等名 “秩序、運動、場域與景觀：歷史的空間維度”——第三屆中日青年學者宋遼夏金元史研討會（招待講演）（國際学会）
4. 發表年 2018年

1. 發表者名 平田茂樹
2. 發表標題 南宋社会士大夫的多重網絡空間——以書信材料為線索
3. 学会等名 第五次“7 至 16 世紀信息溝通与国家秩序”工作坊（國際学会）
4. 發表年 2018年

1. 發表者名 平田茂樹
2. 發表標題 南宋社会士大夫的多重網絡空間——以書信材料為線索
3. 学会等名 中日古代中国社会文化史學術研討會（國際学会）
4. 發表年 2018年

1. 發表者名 平田茂樹
2. 發表標題 從邊境社会看南宋士人的交往和信息溝通
3. 学会等名 紀念孫國棟教授 及唐宋史國際學術研討會（國際学会）
4. 發表年 2017年

1. 発表者名 平田茂樹
2. 発表標題 從辺境社会看南宋士人的交往和信息溝通
3. 学会等名 Second Conference on Middle Period Chinese Humanities (國際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田茂樹
2. 発表標題 南宋辺縁社会士大夫的交流与“知”的建構——以魏了翁和吳泳的事例為線索
3. 学会等名 10至13世紀中國史國際學術研討會及び中國宋史研究會第十七屆年會 (國際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平田茂樹
2. 発表標題 南宋辺縁社会士大夫的交流与“知”的建構——以魏了翁和吳泳的事例為線索
3. 学会等名 “十・十三世紀東亞史的新可能性” 首屆中日青年学者宋遼西夏金元史研討会 (招待講演) (國際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平田茂樹
2. 発表標題 由《夷堅志》等筆記小説看宋代的茶館
3. 学会等名 筆記與宋人的知識建構國際學術研討會 (國際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平田茂樹
2. 発表標題 南宋士大夫の網絡與交往：以魏了翁「靖州居住」時期為線索
3. 学会等名 《游於藝：十一至十四世紀士人的文化活動與人際網絡》國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2015年

〔圖書〕 計5件

1. 著者名 余蔚、平田茂樹、温海清	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中西書局	5. 総ページ数 437
3. 書名 十至十三世紀東亜史の新可能性－首屆中日青年学者遼宋西夏金元史研讨会論文集	

1. 著者名 鄧小南、曹家齊、平田茂樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 北京大學出版社	5. 総ページ数 480
3. 書名 過程、空間：宋代政治史再探研	

1. 著者名 平田茂樹・中村圭爾	4. 発行年 2016年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 416
3. 書名 中国都市論への挑動	

1. 著者名 平田茂樹（共編）	4. 発行年 2015年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 420
3. 書名 中国伝統社会への視角	

1. 著者名 平田茂樹（共編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 416
3. 書名 中国都市論への挑動	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----